

旧国立競技場にあった壁画を新競技場に戻すことを求める請願

衆議院議長 殿
参議院議長 殿

[請願趣旨]

2020年に開催される東京オリンピックのメイン会場として、新国立競技場の建設が予定され、現在の国立競技場は解体されようとしています。このなかに、日本を代表する芸術家の壁画がありました。

1964年東京オリンピック開催に向けて、日本の芸術を世界に示す意気込みで国立競技場に制作された13作品の壁画(ガラスモザイクおよびタイルモザイク)です。そのうち2作品は新国立競技場内の新博物館に設置が予定されていますが、残る11作品の行き先は未定です。原画作者は宮本三郎、脇田和、寺田竹雄、大沢昌助。戦後日本美術のモダニズム絵画を象徴する貴重な作品群です。本来は、制作された現国立競技場にそのまま残り続けることが望ましいのですが、既に競技場解体前に分割し切り出され、一時仮置き場に移されています。

この東京オリンピックのメモリアルモニュメントとして、13作品一括した再展示を国立競技場敷地内に強く要望します。よって、以下の点を強く求めます。

[請願事項]

- 一、旧国立競技場にあった壁画をすべて新競技場に戻し保存すること

氏名	住所

【呼びかけ団体】 国立競技場の壁画を守る会 代表 大沢昌史

大沢昌助 Facebook <https://www.facebook.com/shosuke.osawa>

※この署名は衆議院および参議院に提出し、それ以外に使用しません。居住地、年齢は問いませんので、どなたでも署名できます。